

2025年9月12日

The Emerging Markets Weekly

米利下げ観測の高まりや雇用への懸念が下支えに

新興国市場:先週末 5 日のアジア時間は米利下げ期待の高まりを受けドルが軟調に推移し上昇した。THB や SGD が堅調。欧米時間、米 8 月雇用統計が市場予想を下振れたことでドル安となり新興国通貨は買われた。ZAR は前日比+1.1%、BRL も値を伸ばした。週初 8 日アジア時間、先週末の流れが継続し総じて堅調。THB は 5 日に新首相が指名され、政治的不透明感が払拭されたことが好感され、前日比+1.0% 上昇した。IDR も堅調。欧米時間、米金利の低下が継続し概ね上昇。ZAR が値を伸ばす一方、RUB は前日比▲1.3% 値を下げた。9 日のアジア時間は大半が小幅上昇。THB は前日に続き堅調な動き。他方、IDR はインドネシアのスリ・ムルヤニ財務相が解任されたことが嫌気され前日比▲1.0% 値を下げた。欧米時間、米雇用統計年次改定の発表の前後はドルが乱高下するも、その後反発し、東欧通貨は下押しされ中南米通貨は概ね小幅な値動きとなった。RUB が前日比▲1.3% 値を下げた。10 日アジア時間は目新しい材料がなく小動き。THB と MYR が小幅に値を下げた。欧米時間、米 8 月生産者物価指数 (PPI) が市場予想を下回り、ドルが一時軟化するもその後反発。新興国通貨は一時上昇も上げ幅を縮小した。BRL と ZAR が堅調。11 日のアジア時間は米 8 月消費者物価指数 (CPI) の発表を控え小幅に下落。INR が売られた。欧米時間、米 8 月 CPI は概ね市場予想通りとなるも、米新規失業保険申請件数が市場予想を上回りドルが続落したことを受けて反発した。MXN や ZAR が値を伸ばした。

アジア:5 日公表のフィリピン 8 月 CPI は前年比+1.5% と、市場予想を上振れた。同日、タイでは首相選任選挙が実施され、野党「タイの誇り党」のアヌティン氏が新首相に指名された。インドネシアのプラボウォ大統領は 8 日の内閣改造でスリ・ムルヤニ財務相を解任した。ムルヤニ氏は財政規律を重視する人物として市場では高く評価されてきたことから、同氏の解任は IDR の重しとなった。同日発表された中国 8 月貿易統計は輸出が前日比+4.4% と前月から鈍化し、市場予想も下振れた。輸入も前年比+1.3% と前月から減速、市場予想を下回った。10 日発表の中国 8 月 CPI は前年比▲0.4% と市場予想よりマイナス幅も大きかった。当日公表の中国 8 月 PPI は前年比▲2.9% と市場予想通りとなった。

中東欧・アフリカ:9 日発表の南アフリカ 4~6 月期実質 GDP 成長率は前年比+0.6% と 1~3 月期から鈍化し、市場予想 (同+0.8%) を下回った。トルコ中央銀行は 11 日、政策金利を▲250bp 引き下げ 40.50% にすることを決定した。ドイツインフレや景気の弱さが追加利下げの理由として挙げられた。

ラテンアメリカ:9 日公表のメキシコ 8 月 CPI は前年比+3.57% と市場予想を僅かに上振れた。10 日発表のブラジル 8 月消費者物価指数 (IPCA) は前年比+5.13% と市場予想を上回った。ブラジル最高裁判所は 11 日、クーデターを企てた罪などで問われていたボルソナロ前大統領に有罪判決を下した。

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(タイ)

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

アヌティン新首相が就任も、早期の総選挙実施へ

タイでは 8 月 29 日に解任が決定したペートンタン前首相に代わって、タイ誇り党に所属するアヌティン前副首相兼内相が新首相に就任することが決まった。これにより、タイ貢献党を中心とする連立政権は崩壊したが、アヌティン首相は早期の総選挙実施を約束している。

ペートンタン前首相のカンボジアとの国境紛争を巡る対応を受けて、同氏は首相解任となっており、注目は 9 月 5 日に実施された首相選任選挙に移っていた。当時、連立与党の最大勢力であったタイ貢献党に有力候補がいなかったこと、与党第 2 党であったタイ誇り党が 6 月の時点で与党から離脱していたこともあり、タイ貢献党以外の人物が首相に選出される可能性は十分に考えられる状況となっていた。かかる中、今回首相に選任されたアヌティン氏はペートンタン氏の失脚を受けて次期政権の主導権を握る構えを示していたが、最大の決め手となったのは、野党でありながら下院の最大勢力であるタイ国民党を取り込むことに成功したことであろう。もともと、タイ誇り党とタイ国民党は思想や政策面で大きく異なっており、両党が寄り添って政策運営をすることは困難である。こうした状況下、タイ貢献党を政治の中心から引きずり落とすという点で両党の思惑が合致したと推測される。

タイ国民党は革新的な政党と言われ、王室不敬罪の改正や国軍改革を推進する立場をとっている。一方で、タイ誇り党はやや保守的な政党に分類され、過去親軍派政権に加わっていたこともある。下院において親軍派政党の存在感は近年薄れつつあるも、依然政治における影響力は相応に有している。今回、親軍派政党と比較的距離が近いタイ誇り党のアヌティン氏が首相に就任するという結末は彼らにとっても決して都合の悪い話ではなかったと思われ、それ故に今回の選任選挙は比較的スムーズに進んだと考えられる。

しかし、タイ国民党は政権奪取を目指しており、今回アヌティン氏支持するにあたり、4 か月以内の議会解散を約束させたことが報じられている。そのため、今後 4 か月間、政策自体が異なるタイ誇り党の運営に協力的な姿勢をとるとも考えにくく、今回の首相交代によって、総選挙実施まで再度タイの政治が停滞する懸念が強まったのは事実だろう。

以上を踏まえ、今回の首相選出は暫定的な対応であると整理しておきたい。アヌティン首相は「政権運営に多くの制約はあるかもしれないが、たゆまぬ努力で職務にまい進する」とコメントしているが、景気回復やカンボジアとの紛争解決など課題は多く、4 か月間で取り組める職務には限りが出てくるだろう。結局、タイ政治の行方は次の総選挙に委ねられたと見るべきだが、タクシン派と反タクシン派、改革派政党と保守派の親軍政党といった政党間の対立は根強く、こうした点も長らく政治が安定しない要因になっている。このため、総選挙の結果だけでなく、選挙後の内閣組閣の動向を含めてタイ政治の今後を展望する必要があるだろう。政局の流動化がタイ経済の足を引っ張る構図は近年変わっておらず、今回の首相交代や総選挙を経て、今回こそタイ政治が変わることを期待したい。

市場概観(インドネシア)

市場の信頼が厚い財務相が解任される～逆風が続く IDR 相場～

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

サマリー

インドネシアのプラボウォ大統領は 9 月 8 日、スリ・ムルヤニ財務相を解任。後任はプルバヤ・ユディ・サデワ氏が指名された。ムルヤニ氏はその財政規律への意識の高さから、金融市場からの信認も非常に厚かった。14 年という在任期間がそれを物語っている。プラボウォ政権のポピュリズム的な性質、および財政拡張路線が意識される環境下においては、IDR に関しても大幅高の可能性は低いと言わざるを得ない。

市場の信頼が厚い財務相が解任される～逆風が続く IDR 相場～

インドネシアのプラボウォ大統領は 9 月 8 日、スリ・ムルヤニ財務相を解任した。8 月末に発生した大規模なデモ(*1)では、ムルヤニ氏の自宅が襲撃される事態にまで至っているが、本件との関連性は不明だ。後任には、プルバヤ・ユディ・サデワ氏が指名されている。同氏は、エコノミスト出身で、預金保険公社会長を務めていた人物である。

市場はムルヤニ氏の解任をわかりやすく嫌気した。解任公表時、IDR のスポット市場は既に閉まっていたものの、先物市場は対ドルで明確に下落した(図表 1)。ムルヤニ氏は過去 14 年間にも渡って財務相を務めており、金融市場からの信認も非常に厚い。プラボウォ政権が財政拡張路線を隠さない中で、ムルヤニ氏の存在は財政悪化懸念を持つ市場にとって最大の心の拠り所でもあった。ムルヤニ氏の解任が嫌気されるのは無理もない。

直接的な解任理由こそ不明だが、ムルヤニ氏とプラボウォ氏との間における緊張関係は過去にもあった。例えば、年末年始に実施された付加価値税(VAT)引き上げの突然の緩和に際しても、ムルヤニ氏はやや批判的なコメントを残していた。それ以前にもプラボウォ氏が国防大臣時代、国防費拡張を巡り対立した過去もある。

ムルヤニ氏の解任を受け、市場は財政悪化懸念を強めざるを得ないだろう。既に 8 月には来年の予算案(*2)が公表されているが、やや甘めであったことも記憶に新しい。これに加えての財政規律に厳しいムルヤニ氏の解任は、二重苦と表現しても差し支えない。

インドネシアの政治にかかるリスクは東南アジア諸国と比較しさほど高いわけではないが、過去と比べてリスクは高まっているようにも映る(図表 2)。しかも、プラボウォ政権はポピュリズム的な性格も強く、尚且つ財政に関しても拡張路線だ。例えば、GDP 対比で▲3%という財政赤字の制限に対し、「恣意的」との批判を展開した過去もある。IDR 市場は当面、財政不安の重しに晒される可能性が高いだろう。

(*1)詳細は、2025 年 9 月 1 日発行の通貨ニュース、『インドネシア:反政府デモが過熱、政情不安が IDR の重しに』をご覧ください。

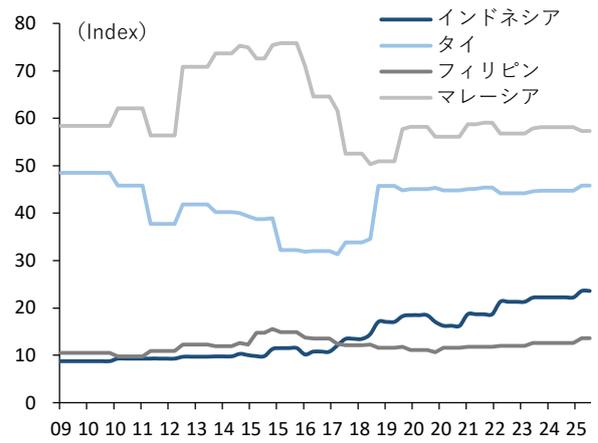
(*2)詳細は、2025 年 8 月 21 日発行の通貨ニュース、『インドネシア:8 月金融政策会合および 2026 年予算案レビュー』をご覧ください。

図表 1: IDR の推移 (対ドル、1 か月の NDF 先物レート)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 政治リスク指数 (ブルームバーグ社算出)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

※高いスコアは、政治分野でのリスクが大きいことを示す

市場概観(メキシコ)

2026 年予算案提出を受けて～やはり甘めな成長率想定～

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

サマリー

9月8日、メキシコのシェインバウム政権は議会に対し2026年予算案を提出した。注目を集める財政収支見通しに関し、GDP対比で▲4.1%と設定された。ただし、前提となる成長率見通しは明らかに強すぎで、甘さも目立つ。歳入面に関しても、「お茶を濁すような格好で事実上の増税が組み込まれており、「増税なしでの財政赤字抑制」とした過去の公約が政権の財政運営を縛っているように見受けられる。債務残高などに鑑みれば財政危機が差し迫っているわけでもないが、かといって近年の財政弛緩が続けばその限りではない。

2026 年予算案提出を受けて～やはり甘めな成長率想定～

現地時間9月8日の深夜、メキシコのシェインバウム政権は議会に対し2026年予算案を提出した。注目を集める財政収支と公的債務残高の見通しに関し、それぞれ▲4.1%、52.3%(GDP対比、以下同様)と設定された(図表1)。財政収支は2025年見通しから若干改善する一方で、公的債務残高は2025年から横ばいになる見通しである。2026年の財政収支見通しは4月の暫定案では▲3.2～▲3.5%とされていたので、事実上の下方修正と評価して差し支えない。

振り返れば、メキシコの財政収支は2024年に大きく悪化し、通年では▲4.9%と実に36年ぶりの赤字幅を記録した。その後2025年に入って以降では財政収支は改善傾向にはあるものの、依然として大きな赤字が残存している状態だ(図表2)。財政健全化が急がれる状態と考えられる。

かかる中で公表された2026年予算案であったが、市場でやはりGDP成長率に関する政府想定が強さが話題になった。2025年の見通しが+0.5～1.5%(前年比、以下同様)、2026年の見通しが+1.8～2.8%となっているが、翻ってメキシコ中央銀行(Banxico)の見通しはそれぞれ+0.6%、+1.1%である(図表3)。特に、2026年の見通しには大きすぎる乖離が見られており、見過ごすことはできない。予算案の成長率見通しが甘いのは新興国では珍しくないが、この幅の乖離はあまりないケースだ。

歳入面では、以前は新たな税導入や税率引き上げはないとの触れ込みがあったものの、一部これに反する項目も見られた。例えば、「Healthy tax」に関し、調整する(≒増税する)、との記載がなされている。かねてシェインバウム大統領は「増税しない」との公約を掲げてきた経緯があり、増税をするにしてもお茶を濁す必要があると認識しているのだろうか。過去の公約が政権の財政運営を縛っているように見受けられる。9日にはアマドール財務相ら政府高官の会見が行われたが、この調整によって410億MXNの歳入増が見込まれるようだ。あくまでこれらは増税ではなく、公衆衛生政策の一環というのが政府の公式的見解である。

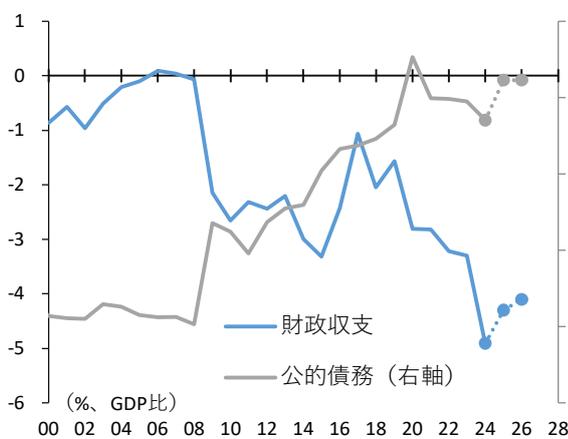
そのほか歳入面で気になるのは、「一般輸入税」に関し見直し方針が示されたことだ。9日の会見では、貿易協定を結んでいない国々に対し、自動車等経済の重要分野に関して輸入関税を賦課することが検討されていることが明かされた。これによって700億MXNの歳入増を見込んでいる模様だ。これらをまとめて、歳入見通しは

+6.3% (実質ベース)となっている。

翻って歳出面では、「高齢者向け年金の維持強化」「女性向け新プログラムの導入」「国有石油会社ペメックスへの支援継続」「戦略的インフラ投資の継続」などが強調されている。特に、高齢者年金や女性福祉年金などには多額の予算が投入される見込みだ。そのほかインフラ投資では、物流や水源等の重点分野のプロジェクトとして指定されている。一方で、アムロ政権で進められた大規模インフラ投資の一部見直しなどが背景となり、歳出見通しは+5.9% (実質ベース)に抑制されている。

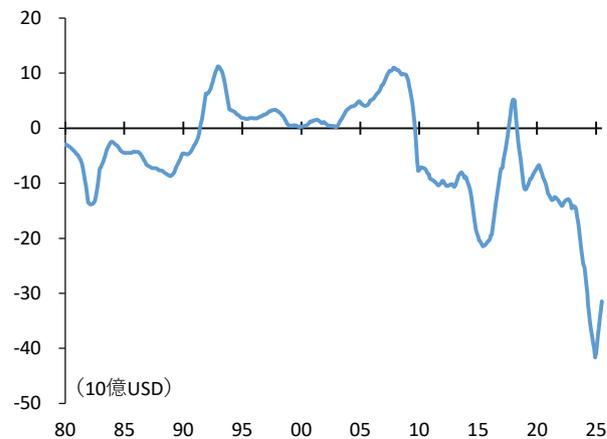
以上が予算案の概観であるが、今後議会での議論が行われ、一部は見直しも入る可能性がある。もっとも、現与党連合の議席数に鑑みれば、大きな修正は必要ないだろう。

図表 1: メキシコ財政収支と公的債務残高 (実績、見通し)



出所: メキシコ財務省、CEIC、みずほ銀行

図表 2: メキシコの月次財政収支



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: メキシコ中銀による実質 GDP 成長率見通し

GDP成長率見通し				
		2024	2025	2026
2025年	8月時点	1.5%	0.6%	1.1%
	5月時点	1.5%	0.1%	0.9%
	2月時点	1.5%	0.6%	1.8%
2024年	11月時点	1.8%	1.2%	1.8%
	8月時点	1.5%	1.2%	-
	5月時点	2.4%	1.5%	-
	2月時点	2.8%	1.5%	-

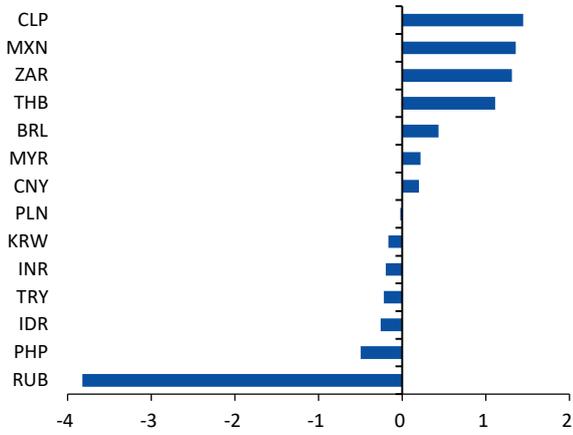
※前年比、%

※見通しの中央値を記載

出所: メキシコ中銀、みずほ銀行

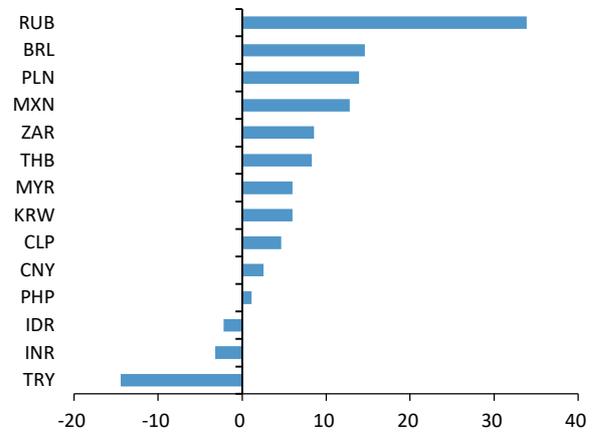
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



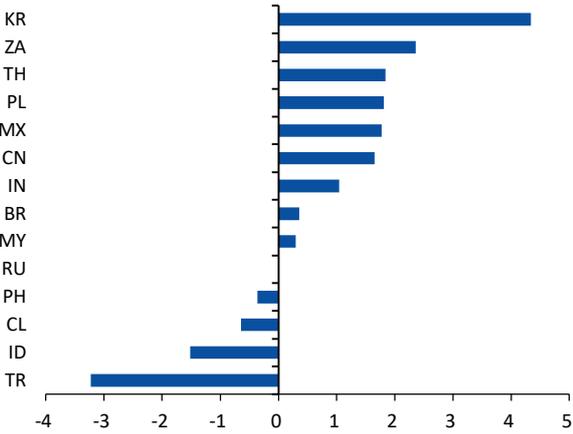
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



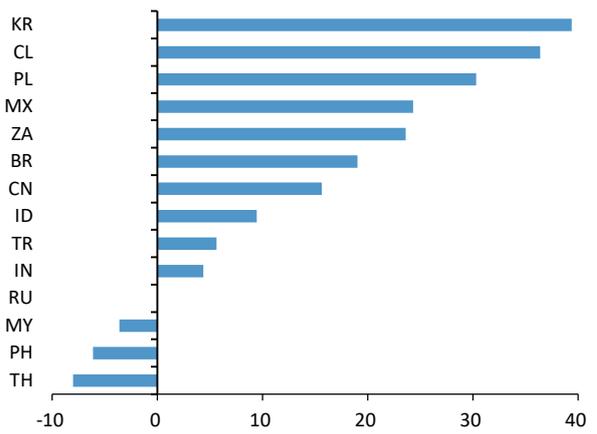
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



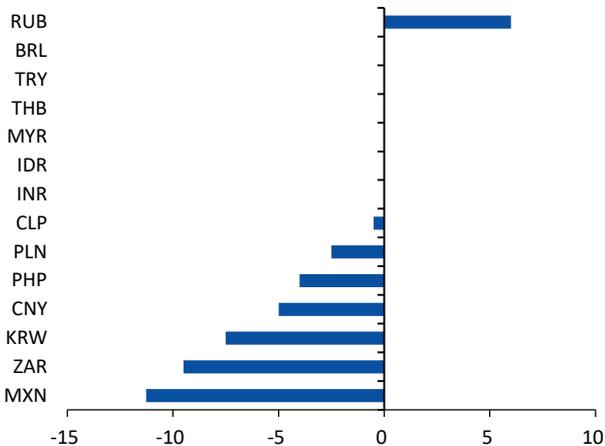
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

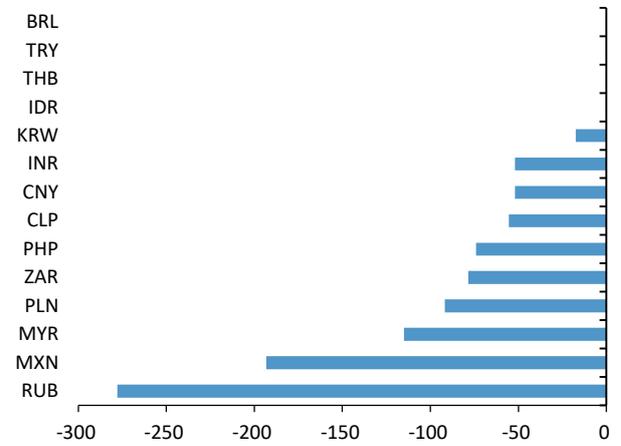
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

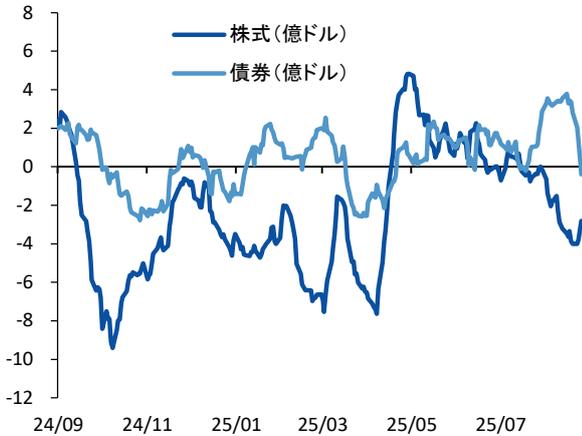


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

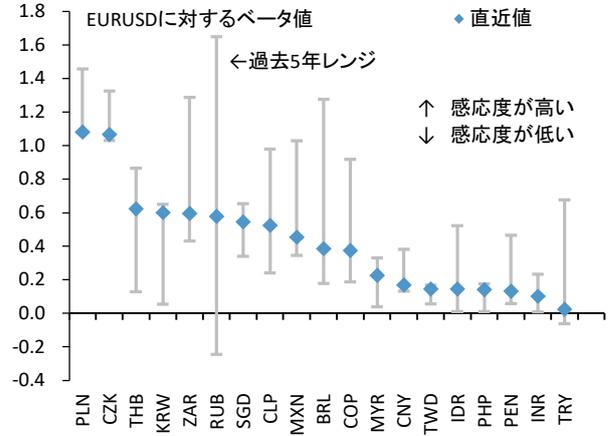
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



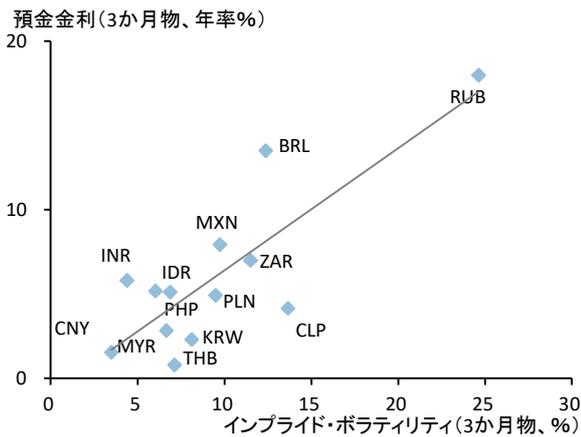
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



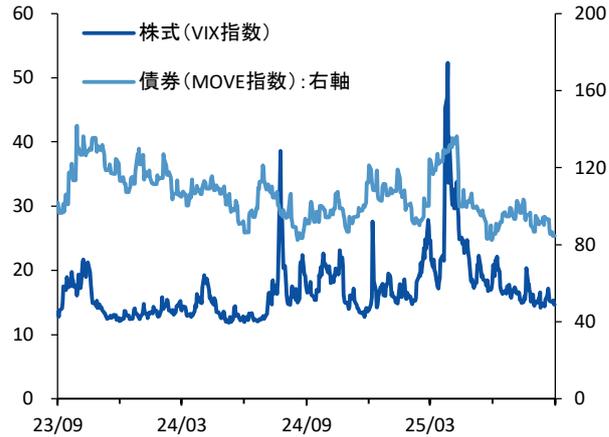
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



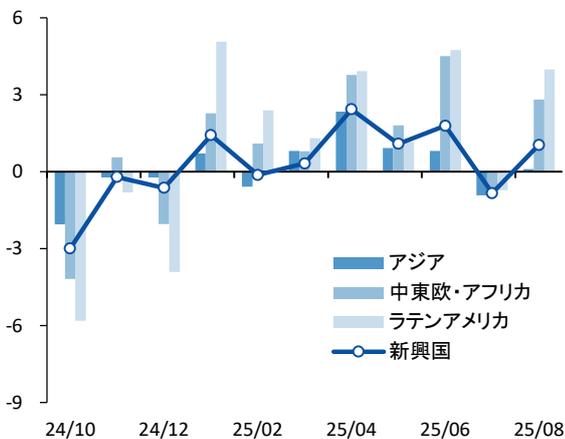
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



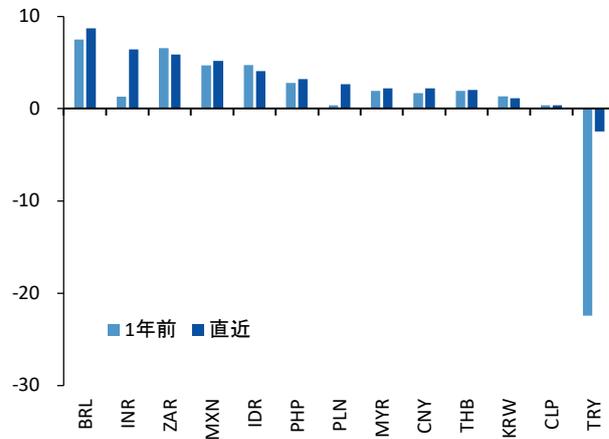
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
9月8日 (月)	中国	輸出(前年比)	5.5%	4.4%	7.2%	--
8日 (月)	中国	輸入(前年比)	3.4%	1.3%	4.1%	--
8日 (月)	中国	貿易収支	\$99.45b	\$102.33b	\$98.24b	--
9日 (火)	台湾	貿易収支	\$13.10b	\$16.83b	\$14.34b	--
10日 (水)	韓国	失業率(季調済)	2.5%	2.6%	2.5%	--
10日 (水)	フィリピン	失業率	--	5.3%	3.7%	--
10日 (水)	中国	PPI(前年比)	-2.9%	-2.9%	-3.6%	--
10日 (水)	中国	CPI(前年比)	-0.2%	-0.4%	0.0%	--
11日 (木)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	2.8%	4.2%	3.0%	--
12日 (金)	インド	CPI(前年比)	2.1%	--	1.6%	--
15日 (月)	中国	小売売上高(前年比)	3.9%	--	3.7%	--
15日 (月)	中国	鉱工業生産(前年比)	5.7%	--	5.7%	--
15日 (月)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	1.5%	--	1.6%	--
15日 (月)	インド	卸売物価(前年比)	0.4%	--	-0.6%	--
15日 (月)	インド	輸出(前年比)	--	--	7.3%	--
15日 (月)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	--	--	3.7%	--
15日 (月)	インド	輸入(前年比)	--	--	8.6%	--
17日 (水)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	-4.6%	--
17日 (水)	インドネシア	BI-Rate	--	--	5.00%	--
18日 (木)	台湾	CBC指標金利	--	--	2.0%	--
18-26日	タイ	貿易収支(通関ベース)	--	--	\$322m	--
19日 (金)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	6.8%	--
19日 (金)	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$167m	--
中東欧・アフリカ						
9月9日 (火)	南ア	GDP(前年比)	0.8%	0.6%	0.8%	--
10日 (水)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	5.0%	8.3%	8.5%	--
10日 (水)	ロシア	CPI(前年比)	8.3%	8.1%	8.8%	--
11日 (木)	南ア	経常収支(対GDP比)	-0.7%	-1.1%	-0.5%	--
11日 (木)	トルコ	1週間レポレート	41.00%	40.5%	43.00%	--
12日 (金)	トルコ	経常収支	1.50b	--	-2.01b	--
12日 (金)	ロシア	主要金利	16.00%	--	18.00%	--
12日 (金)	ロシア	GDP(前年比)	1.1%	--	1.1%	--
17日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	3.5%	--
17日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	1.6%	--
17日 (水)	ロシア	PPI 前年比	--	--	-0.3%	--
18日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	--	--	7.00%	--
ラテンアメリカ						
9月9日 (火)	メキシコ	CPI(前年比)	3.6%	3.6%	3.5%	--
10日 (水)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	5.1%	5.1%	5.2%	--
11日 (木)	ブラジル	小売売上高(前年比)	0.8%	1.0%	0.3%	0.4%
11日 (木)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	-0.9%	-2.7%	-0.4%	--
15日 (月)	ブラジル	経済活動(前年比)	--	--	1.4%	--
17日 (水)	ブラジル	SELICレート	15.00%	--	15.00%	--
19-23日	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	--	2.4%	--

注:2025年9月12日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2025年 1～8月(実績)	SPOT	2025年 9月	12月	2026年 3月	6月	9月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	7.1267 ~ 7.3512	7.1186	7.18	7.23	7.14	7.11	7.08
香港ドル (HKD)	7.7500 ~ 7.8500	7.7887	7.79	7.78	7.78	7.77	7.76
インドルピー (INR)	83.764 ~ 88.310	88.440	87.0	85.8	86.3	85.5	85.8
インドネシアルピア (IDR)	16079 ~ 17224	16462	16300	16500	16250	16000	16000
韓国ウォン (KRW)	1347.23 ~ 1487.45	1388.86	1380	1370	1350	1340	1330
マレーシアリング (MYR)	4.1805 ~ 4.5185	4.2213	4.18	4.26	4.14	4.07	4.06
フィリピンペソ (PHP)	55.158 ~ 58.715	57.191	55.7	56.1	55.2	54.4	54.4
シンガポールドル (SGD)	1.2698 ~ 1.3751	1.2815	1.29	1.31	1.30	1.29	1.28
台湾ドル (TWD)	28.790 ~ 33.280	30.327	30.0	29.7	29.3	29.0	29.0
タイバーツ (THB)	32.09 ~ 34.98	31.74	32.2	33.0	32.8	32.5	32.3
ベトナムドン (VND)	25038 ~ 26437	26397	26250	26350	26250	26200	26150
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	74.0500 ~ 114.7788	84.7993	82.0	84.0	86.0	88.0	90.0
南アフリカランド (ZAR)	17.4312 ~ 19.9328	17.3633	17.6	17.4	17.6	17.8	18.0
トルコリラ (TRY)	35.2419 ~ 41.9184	41.3532	42.0	43.0	44.0	45.0	46.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	5.3807 ~ 6.2270	5.3892	5.45	5.55	5.65	5.70	5.75
メキシコペソ (MXN)	18.5109 ~ 21.2932	18.4710	18.8	19.2	19.4	19.2	19.0
対円							
エマージングアジア							
中国人民幣 (CNY)	19.145 ~ 21.666	20.676	20.47	20.19	20.31	20.68	21.05
香港ドル (HKD)	18.031 ~ 20.403	18.896	18.87	18.77	18.64	18.92	19.20
インドルピー (INR)	1.644 ~ 1.848	1.664	1.69	1.70	1.68	1.72	1.74
インドネシアルピア (100IDR)	0.830 ~ 0.981	0.894	0.902	0.885	0.892	0.919	0.931
韓国ウォン (100KRW)	9.749 ~ 10.916	10.594	10.65	10.66	10.74	10.97	11.20
マレーシアリング (MYR)	31.951 ~ 35.699	35.058	35.17	34.27	35.02	36.12	36.70
フィリピンペソ (PHP)	2.470 ~ 2.726	2.584	2.64	2.60	2.63	2.70	2.74
シンガポールドル (SGD)	107.08 ~ 116.28	114.85	113.69	111.79	111.71	114.31	116.22
台湾ドル (TWD)	4.310 ~ 5.090	4.854	4.90	4.92	4.95	5.07	5.14
タイバーツ (THB)	4.150 ~ 4.653	4.637	4.57	4.42	4.42	4.52	4.61
ベトナムドン (100VND)	0.5401 ~ 0.6253	0.5574	0.56	0.55	0.55	0.56	0.57
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.370 ~ 1.985	1.736	1.79	1.74	1.69	1.67	1.66
南アフリカランド (ZAR)	7.263 ~ 8.525	8.475	8.35	8.39	8.24	8.26	8.28
トルコリラ (TRY)	3.501 ~ 4.481	3.551	3.50	3.40	3.30	3.27	3.24
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	23.669 ~ 27.475	27.306	26.97	26.31	25.66	25.79	25.91
メキシコペソ (MXN)	6.845 ~ 8.027	7.968	7.82	7.60	7.47	7.66	7.84

注: 1. 実績の欄は2025年8月29日まで。SPOTは9月12日の7時10分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。